

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3910410772
法人名	医療法人 浦松会
事業所名	グループホーム ワルツ
訪問調査日	平成 20 年 1 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	3910410772		
法人名	医療法人 浦松会		
事業所名	グループホーム ワルツ		
所在地 (電話番号)	南国市立田1168-1 (電話)088-863-8311		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年5月22日

【情報提供票より】(H・19年12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 5日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 10人 非常勤 6人 常勤換算 15.1人

(2)建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> 改築
建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~35,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円
敷 金	<u>有</u> (家賃2ヶ月分 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.2歳	最低	71歳	最高	102歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	南国厚生病院、高島歯科医院	2
---------	---------------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年の4月で開設5年目を迎える田園地帯の中に建つ、モダンな佇まいのホームである。法人院長が「老夫婦仲良く手を取り合ってワルツを踊る」という思いを込めてワルツと名づけたホームは、ソングとピアノの2ユニットからなり、広々とした室内は安全面にも配慮され、車椅子でも自由に移動ができる。管理者はじめ職員は、利用者に対してきめ細かな心配りをしており、「人としての権利と尊厳を尊重」という理念に基づきケアを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善点とされた「トイレの目印の位置」は、利用者の目線になるように改善され、「研修の報告書綴り」も作成されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員にも意見を聞き全員で取り組み、改善課題については既に改善計画を立て、改善シートを作成して、出来る所から取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所からの報告が主体となっているが、地元消防団との協力体制の強化を目指すために、地区消防団の団長さんを紹介してもらったり、家族からの質問や意見なども出されており、双方向的な会議になるように配慮している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来訪しやすい雰囲気であり、面会や家族会への出席者が多く、相談し易い環境にある。意見や苦情は少ないが、苦情対応の記録は残しており、どんな小さな苦情にも前向きに対応する姿勢が窺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には参加していないが、地元の神社のお祭りや公民館行事など地域の行事には積極的に参加し、近所の農家から野菜を頂いたり、保育園や小・中学校との交流もある。また、散歩がてら地域の商店を利用したり、近所の人と立ち話をするなど、地域との連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	■事業所独自の理念がある。 「人としての権利と尊厳を尊重」など、利用者の生活スタイルを大切にすることを中心とした事業所独自の5項目の理念がある。 □これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 「共同生活の楽しさの実感」という項目が広い意味で地域との関係を表しているということであるが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容とは言い難い。	○	地域との交流については、ホームとして意識し、活動しているため、現行の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容がわかる理念を追加することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	■理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 朝の申し送りや月1回のユニット会などで話し合っている。 ■日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 利用者の立場に立ち、押し付けにならない、利用者の生活を尊重したケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	□地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 ■リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域の神社のお祭りや公民館行事などの情報収集を行い参加するなど、地域との接点を持つ努力をしている。	○	地域住民の一員として、利用者が積極的に地域活動に参加しているが、更に地域に根ざしたホームになるためにも、町内会に参加し、名実共に地域の一員となることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	■サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 職員にも意見を聞き全員で取り組んでいる。 ■評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 自己評価で見出された課題について、改善シートを作成し、できるところから取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>■会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>事業所からの報告が主体となっているが、町内から地区消防団の団長さんを紹介してもらったり、家族からの質問や意見なども出されており、双方向的な会議になるように配慮している。</p> <p>■評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<p>■市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>市の担当窓口にもホームから積極的に出向き、ホームの様子を伝えたり、ホームの行事に参加してもらうなどの交流を図り、気軽に相談出来る関係を作っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<p>■家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。</p> <p>家族が来訪しやすい雰囲気であり、来訪時には家族も気軽に相談し、ホームからも積極的に声をかけている。</p> <p>■利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。</p> <p>年2回のワルツ便りに添えて、ホームでの行事や暮らしぶりを写した写真をファイルに綴じて家族に送付している。また、毎月担当から手紙を出すなど、きめ細かな対応をしている。</p> <p>■心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告している。</p> <p>■金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。</p> <p>金銭の預りはなく、立替払いをして、後日領収証と引き替えに精算している。</p>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>■家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。</p> <p>年3回の行事にあわせて家族会を開催している。家族の出席は多く、意見を出しやすい雰囲気作りをしている。</p> <p>■苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。</p> <p>意見や苦情は少ないが、苦情処理の記録は残しており、どんな小さな苦情にも前向きに対応し、事後の参考にする姿勢が窺える。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	■利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 ■職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 1カ月程度の引き継ぎ期間をとるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	■日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 ■全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 月1回のユニット会で報告し、研修記録も保管している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	■県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 県内の宅老所・グループホーム連絡協議会に加入し、協議会主催の講習や行事の手伝いなどに積極的に参加している。 ■管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 南国市内6カ所のグループホームと交流があり、年3回程度勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	■入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 ■本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 本人同伴の見学時には一緒におやつを食べるなど、体験や見学の受け入れをしている。 ■入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>■日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 食器洗い、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳など、利用者が出て来る事をしてもらう場面づくりを設定している。</p> <p>■支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。</p> <p>103歳の男性が、車椅子を使って職員と一緒に木の枝切りをしたり、おやつは利用者から教えてもらって作ったり、互いに協働しながら生活をする場面作りをしている</p> <p>■利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 畑の手入れ、季節の花の活け方、昔の風習など教えてもらうことが多い。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>■一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 ICFのアセスメントシートを活用し、一人ひとりの思いの把握に努めている。</p> <p>■意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族や本人の様子から、思いや希望などを汲み取る努力をしている。。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>■本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 本人はもちろん、近隣の家族からは面会で、遠方の家族からは電話で意見・要望等を聞き、介護計画に反映している。</p> <p>■アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 月1回、職員会で職員の意見交換を行い、モニタリング、カンファレンスも定期的に行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<p>■介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。</p> <p>■本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。</p> <p>■ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。</p> <p>退院時には当初1週間の期間設定をし、本人の状況に合わせて介護計画の変更をするなど、きめ細かな個別対応をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<p>■医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。</p> <p>母体の医療法人が、駐車場をはさんで隣接しているので、医療処置を受けながらホームでの生活が可能である。</p> <p>■重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。</p> <p>母体医院と連携しながら、終末期の利用者をホームでケアするなど、提供できる体制にある。</p> <p>■特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>■いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。</p> <p>■受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。</p> <p>■受診結果に関する情報の共有ができています。</p> <p>検査記録や受診結果を個別記録として保管し、職員間で共有している。</p>		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<p>■終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。</p> <p>入居時に対応方針の説明をし、必要に応じてきめ細かく個別に対応している。</p> <p>■本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<p>■人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。</p> <p>トイレに誘導する際は耳元での声掛けを心がけ、利用者に対する普段の声掛けも丁寧で尊厳を傷つけるような対応は見られない。</p> <p>■他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。</p> <p>採用時にプライバシーに関する誓約書を職員と交わし、利用者のプライバシー保護に関することを徹底している。</p> <p>■全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底している。</p> <p>個人情報保護法を職員が理解するよう努めるとともに、法人で定めている「患者さんの個人情報保護に関する院内規則」を準用して、その徹底を図っている。</p>		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>■一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。</p> <p>自宅の様子を見に帰りたいと言う利用者の希望を聞き、きホームの車で自宅まで行ったり、散歩の好きな人とは一緒に出かけるなど、個別の希望に柔軟に対応している。</p> <p>■事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。</p> <p>起床の遅い人、食事の遅い人など、それぞれの利用者のペースを大切にしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>■献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。</p> <p>献立は、母体病院の管理栄養士の指導で作っているが、利用者の好みを取り入れたものとなっている。また、料理の下ごしらえ、配膳、下膳など、出来る事は利用者と一緒にしている。</p> <p>■職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>■利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 入浴日は、利用者の希望に出来るだけあわせるようにしており、最低でも2日に1回の入浴を心がけている。</p> <p>■入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 現在入浴を拒否する利用者はいないが、拒否する利用者がある場合は時間を置き、職員が交代で対応するなど工夫している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>■何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 絵や彫刻が好きな人の作品をホールに飾ったり、生け花の得意な人に季節の花を活けてもらったりして、その人の楽しみごとや役割を把握し活用している。</p> <p>■食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 煮物の得意な人に煮方を教わり、飾り付けや物づくりの好きな人に手洗いの小さな空間に小物を配置してもらうなど、利用者の得意な事を発揮できる場面作りをしている。</p> <p>■一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 絵の好きな人に材料を提供したり、畑作りに誘って作物をつくる楽しみを味わってもらうなど、一人ひとりの役割や楽しみごと等を作り出す働きかけを行っている。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>■近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。</p> <p>■歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 5名の車椅子使用者がいるが、日常的に散歩やドライブに出かけている。</p> <p>■日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 地域の商店での買い物のほか、遠方のスーパーでの買い物、公園への散歩や花見家族同伴の食事会など、外出支援をしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>■居室や日中玄関に鍵をかけていない。</p> <p>■利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。</p> <p>■近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 過去に近所の人から連絡をもらったこともあり、見守りや声掛けをしてもらえる地域との関係ができています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的実施している。 年1回の消防署との訓練、事業所での自主訓練はしているが、地域住民が参加した訓練には至っていない。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 ※視認する。	○	地域の避難所である母体医院は非常食などを備蓄しているが、ホームにも水や非常食を備蓄することを望む。また、災害時の住民の協力は不可欠であり、地域住民の参加による防災訓練を実施することが求められる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	■一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 チェック表で把握している。 ■一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 ■定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 母体病院の管理栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	■利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 広々としたホールに一般家庭で使用される家具が配置され、利用者にとっては使いやすい空間となっている。 ■天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 ■季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 利用者が活けた季節の花や鉢植えの草花を程良く配置し、季節感のある装飾がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	■使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫している。 ■家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		